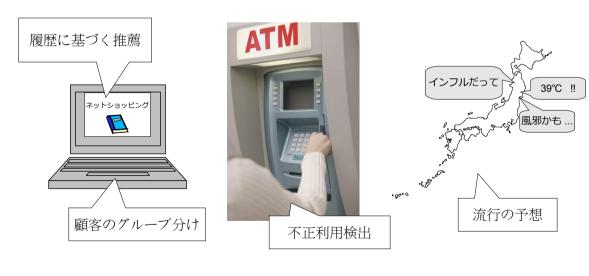
1. はじめに

内容

- 1.1 ビッグデータの時代 近年のビッグデータ・機械学習の話題
- 1.2 機械学習とは何か機械学習の全体像
- 1.3 機械学習の分類 教師あり学習、教師なし学習、中間的手法

1.1 ビッグデータの時代

- ビッグデータとは
 - ネットワーク、センサー等の発達によって収集され たデータ
 - 大量・多様・スピードが特徴
- ビッグデータは何に使えるか
 - 有用な知見の獲得
 - 省力化
 - 将来の予測



多様な趣味・嗜好に対応

安心・安全を進化

経験や勘を超越

1.1 ビッグデータの時代

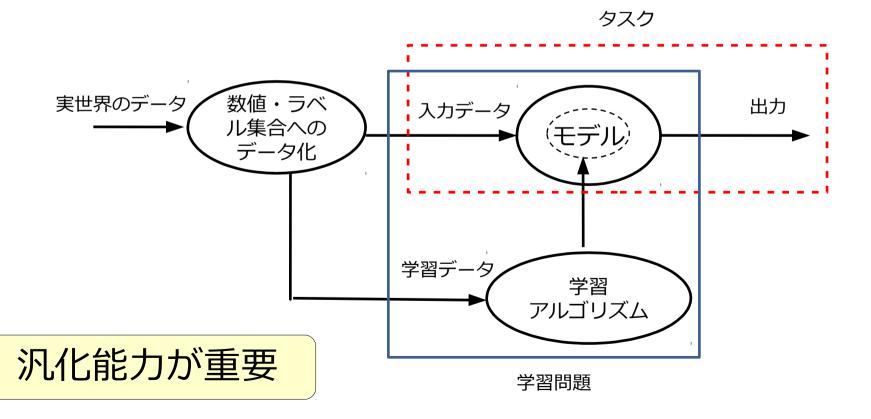
- ビッグデータ処理の問題点
 - データ量が膨大なので人手による情報抽出は不可能
 - 矛盾・曖昧性・ノイズを含むデータを処理するプロ グラムを記述するのは難しい



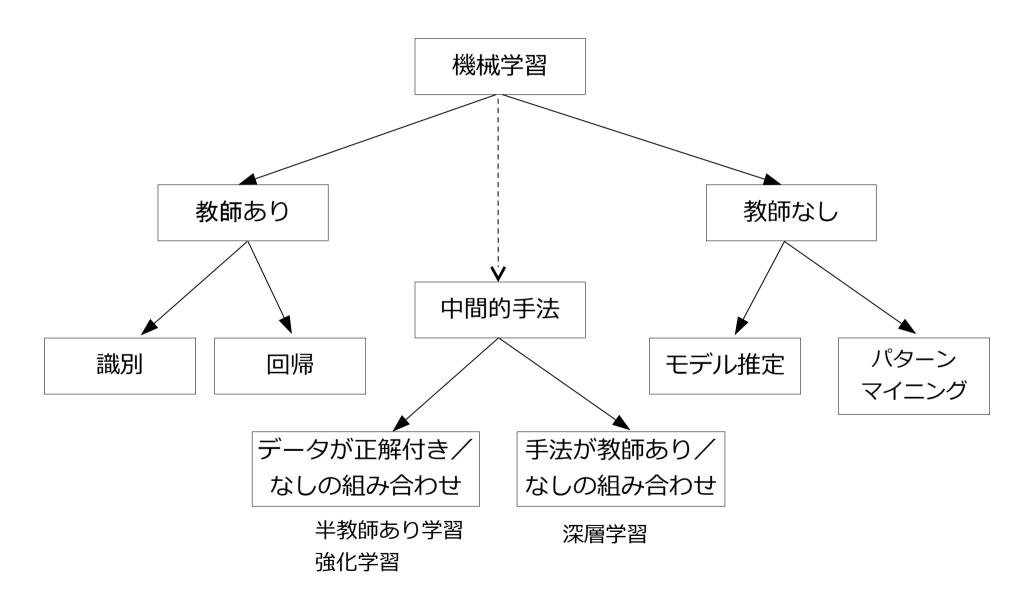
コンピュータによる機械学習が有望

1.2 機械学習とは何か

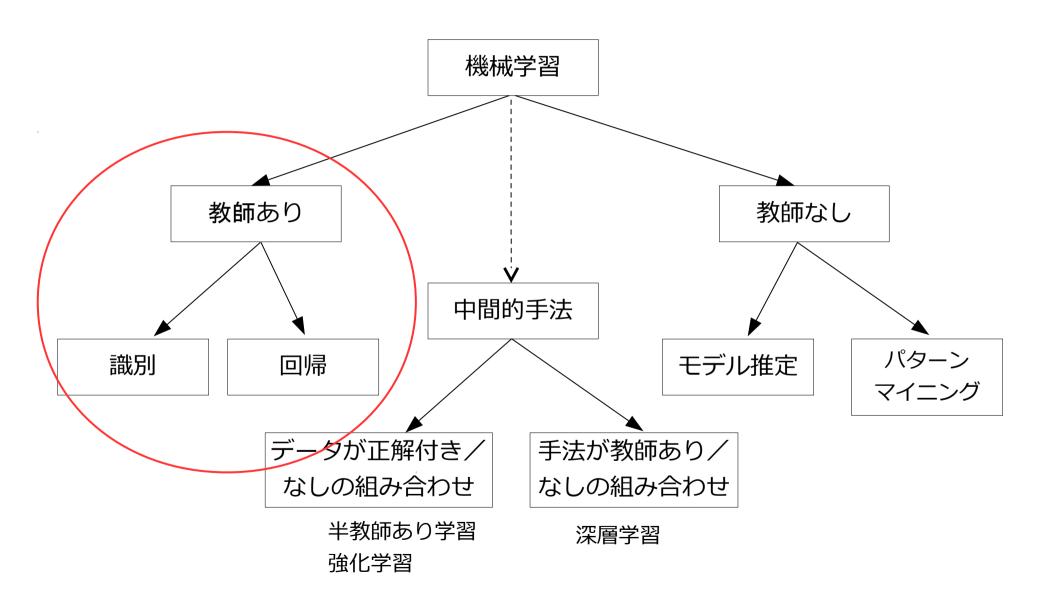
- 機械学習の定義 [Flach 2012]
 - ・機械学習は、適切に**タスク**を遂行する適切な**モデル**を、適切な**特徴**から構築すること



1.3 機械学習の分類

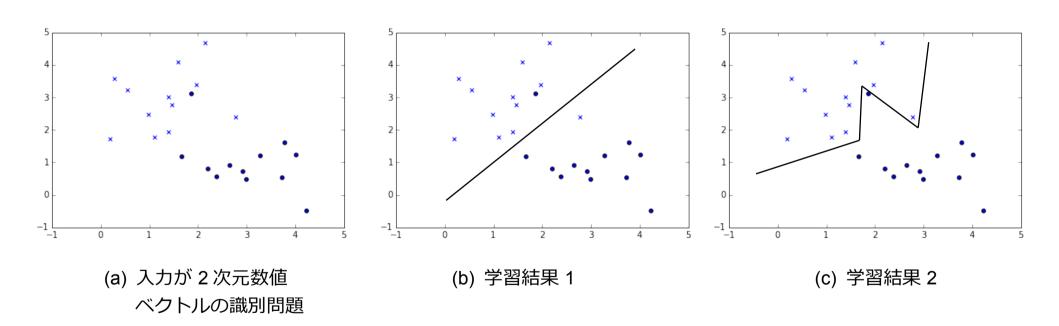


1.3 機械学習の分類



1.3.1 教師あり学習

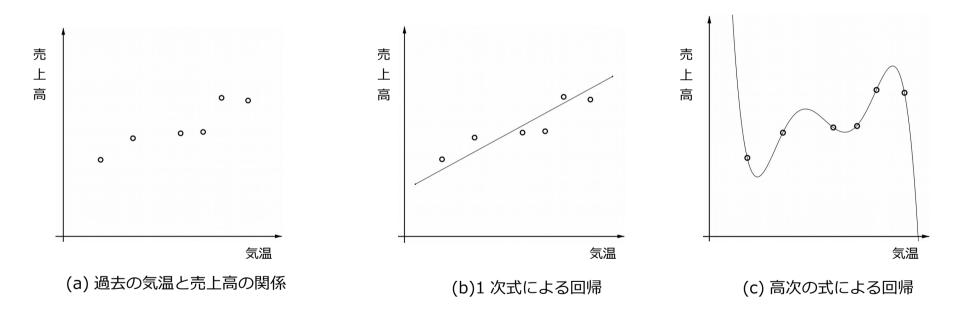
- 識別
 - 学習データに対するエラーが最小となるような特徴空間上の分離面を求める



一般化という視点でどちらが適しているか

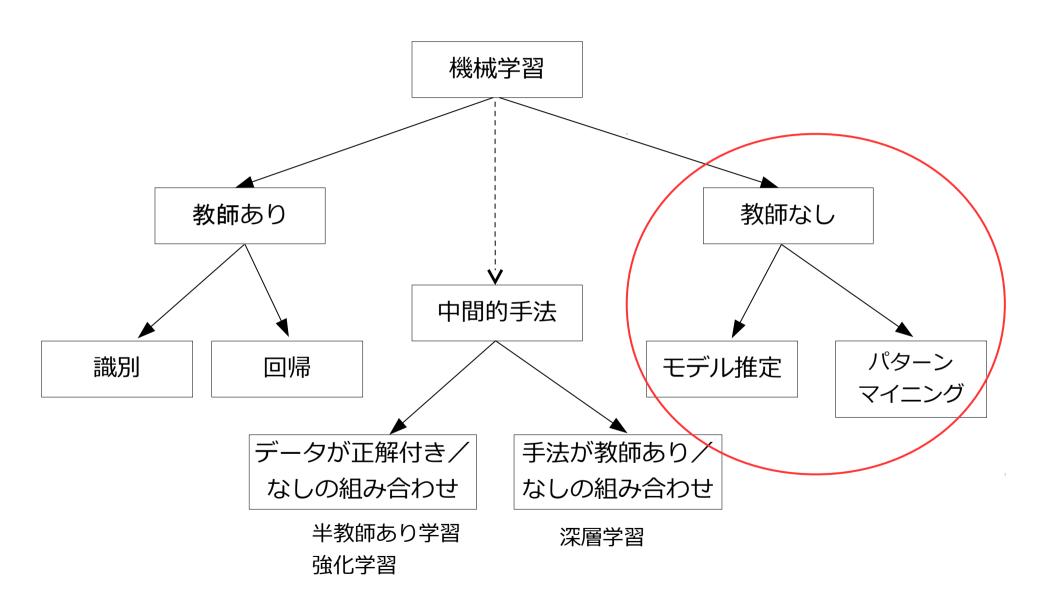
1.3.1 教師あり学習

- 回帰
 - 学習データに対するエラーが最小となるような近似 関数を求める



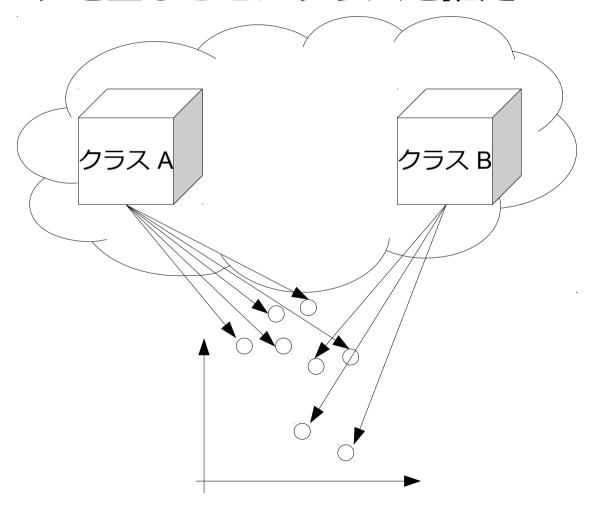
一般化という視点でどちらが適しているか

1.3 機械学習の分類



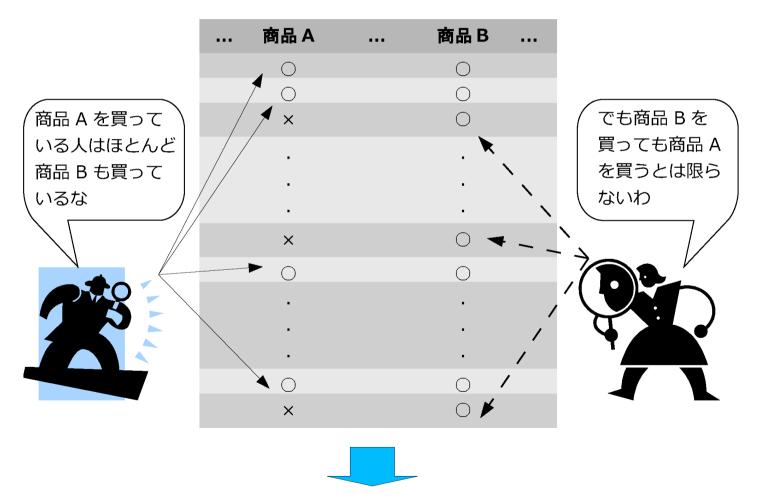
1.3.2 教師なし学習

- モデル推定
 - データを生じさせたクラスを推定



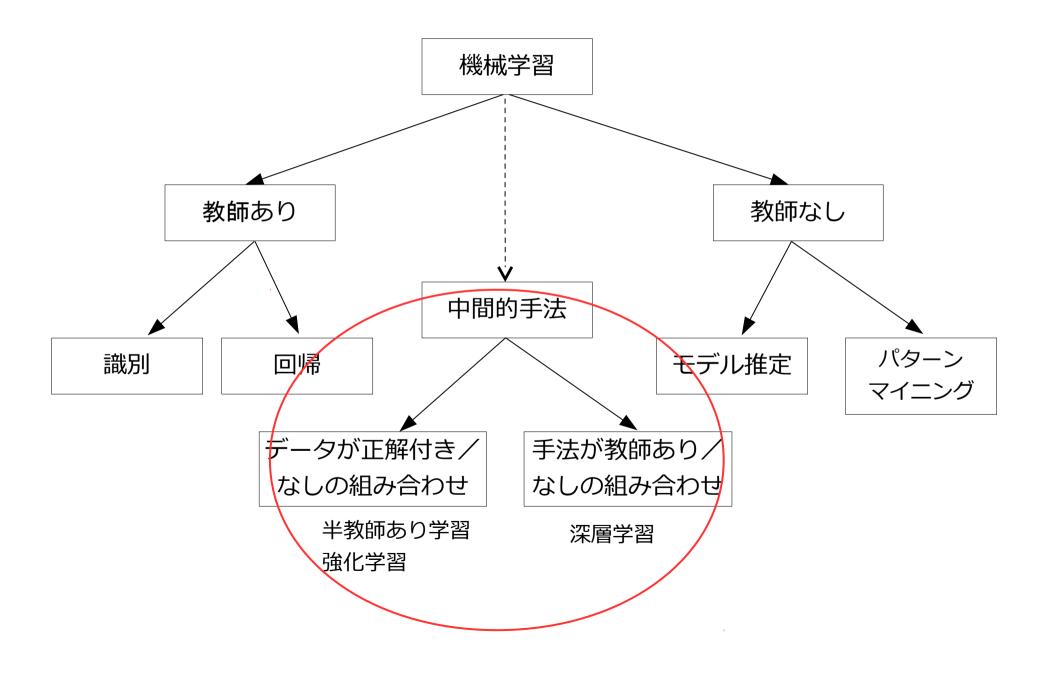
1.3.2 教師なし学習

- パターンマイニング
 - 頻出項目や隠れた規則性を発掘



「商品 A を購入」⇒ (ならば)「商品 B を購入」

1.3 機械学習の分類

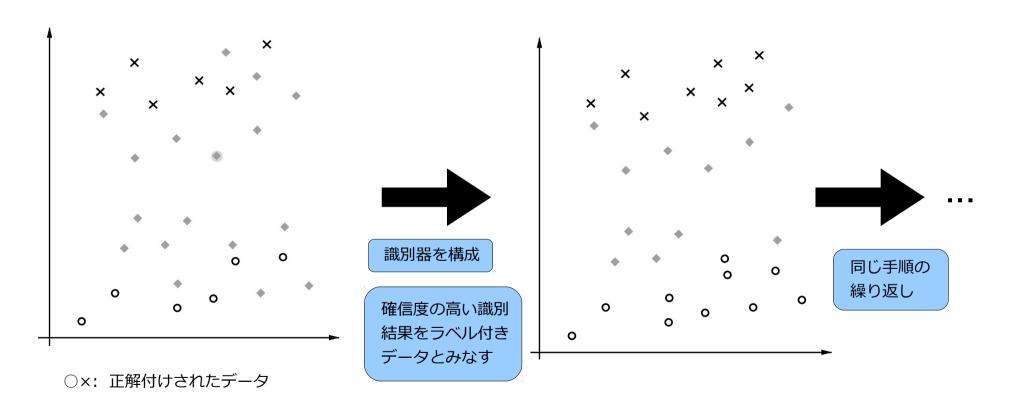


1.3.3 中間的手法

• 半教師あり学習

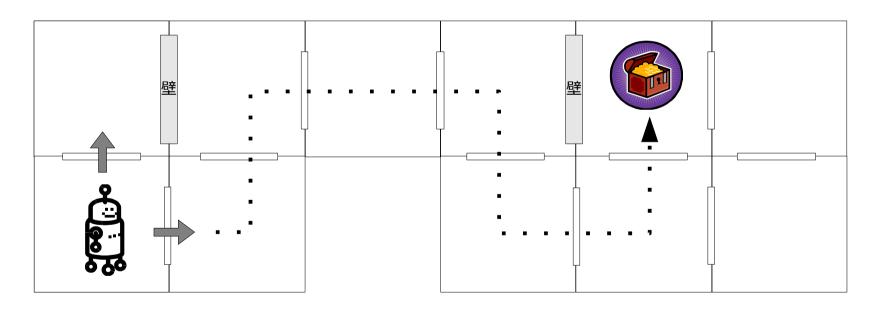
◆: 正解付けされていないデータ

• 繰り返しによる学習データの増加



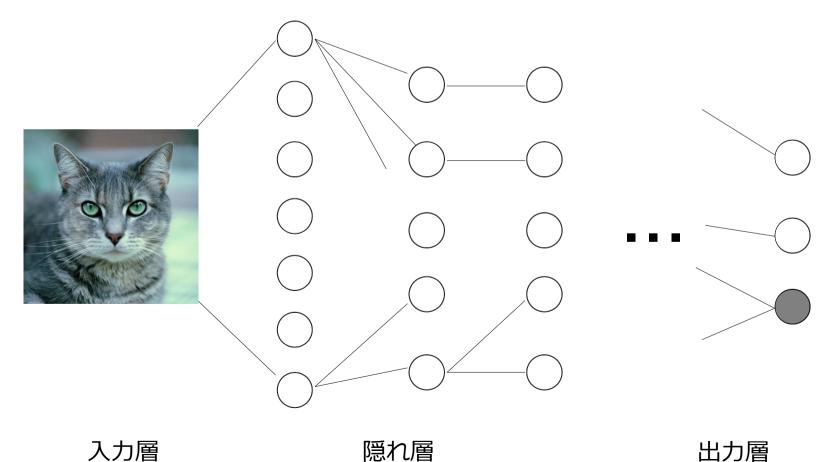
1.3.3 中間的手法

- 強化学習
 - 教師信号が、間接的に、ときどき、確率的に与えられる

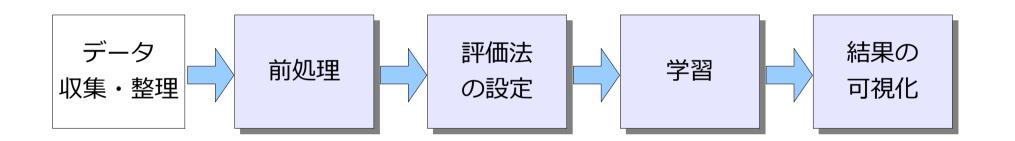


1.3.3 中間的手法

- 深層学習
 - 教師なし学習で初期値を設定→表現学習
 - 教師あり学習で識別能力を学習

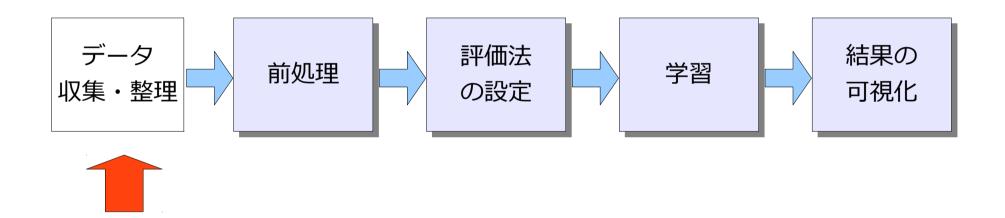


2. 機械学習の基本的な手順



: ツールによる支援が可能

2. 機械学習の基本的な手順



2.1 データ収集・整理

- (勉強用の)機械学習のデータ
 - データマイニングツール Weka に付属

表 2.2 Weka 付属のデータ

データ名	内容	特徴	正解情報
breast-canser	乳癌の再発	ラベル	クラス (2 値)
contact-lenses	コンタクトレンズの推薦	ラベル	クラス (3 値)
cpu	CPU の性能評価	数值	数值
credit-g	融資の審査	混合	クラス (2 値)
diabetes	糖尿病の検査	数值	クラス (2 値)
iris	アヤメの分類	数值	クラス (3 値)
Reuters-Corn	記事分類	テキスト	クラス (2 値)
supermarket	スーパーの購買記録	ラベル	なし
weather.nominal	ゴルフをする条件	ラベル	クラス $(2 値)$
weather.numeric	ゴルフをする条件	混合	クラス (2 値)

2.1 データ収集・整理

• Weka のデータ形式 ARFF フォーマット

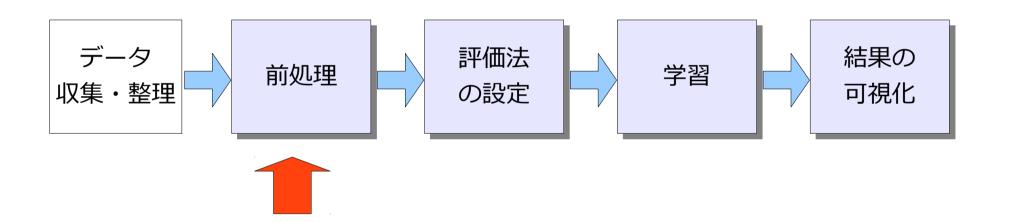
長さ・幅

アヤメの

種類

```
% 1. Title: Iris Plants Database
          @RELATION iris
                             データセット名
          @ATTRIBUTE sepallength
                                  REAL
                                          特徴名と型
萼・花びらの
          @ATTRIBUTE sepalwidth
                                  REAL
          @ATTRIBUTE petallength
                                  REAL
          @ATTRIBUTE petalwidth
                                  REAL
          @ATTRIBUTE class {Iris-setosa, Iris-versicolor, Iris-virginica}
          ATAGE
                                                  これ以降、1行に1事例
          5.1, 3.5, 1.4, 0.2, Iris-setosa
          4.9, 3.0, 1.4, 0.2, Iris-setosa
                                                 (Excel の CSV 形式と同じ)
          7.0, 3.2, 4.7, 1.4, Iris-versicolor
          6.4, 3.2, 4.5, 1.5, Iris-versicolor
          6.3, 3.3, 6.0, 2.5, Iris-virginica
          5.8, 2.7, 5.1, 1.9, Iris-virginica
```

2. 機械学習の基本的な手順



2.2 前処理

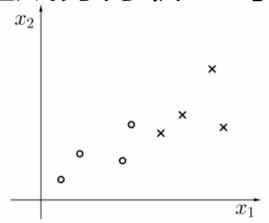
• データの標準化

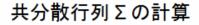
なぜ必要?

- 各次元に対して平均値を引き、標準偏差で割る
- その結果、平均 0 、分散 1 の標準正規分布に従う
- 分析
 - 主成分分析(次元削減)
 - データの散らばりをできるだけ保存する低次元空間へ 写像
 - データの可視化に有効

2.2 前処理

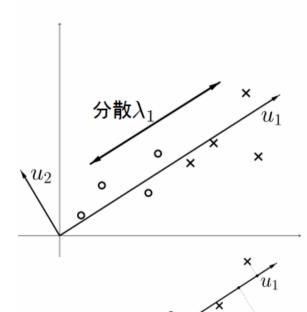
• 主成分分析の考え方





 $ar{x_1},ar{x_2}$: 平均値、N: データ数

$$\Sigma = \frac{1}{N} \begin{pmatrix} \sum (x_1 - \bar{x_1})^2 & \sum (x_1 - \bar{x_1})(x_2 - \bar{x_2}) \\ \sum (x_1 - \bar{x_1})(x_2 - \bar{x_2}) & \sum (x_2 - \bar{x_2})^2 \end{pmatrix}$$



Σは

対角成分は分散、 非対角成分は相関を表す

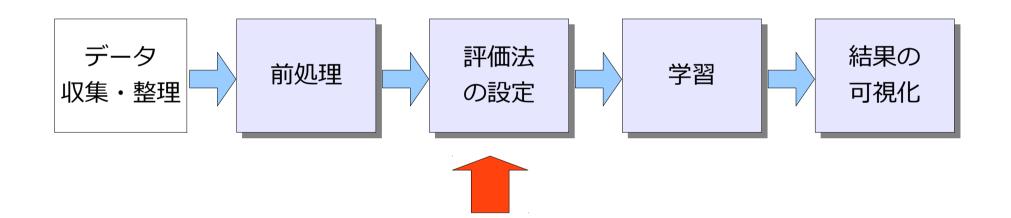
半正値 (→ 固有値が全て 0 以上の実数) 対称行列 (→ 固有ベクトルが実数かつ直交) であるので

$$\Sigma' = U^T \Sigma U = \begin{pmatrix} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{pmatrix}$$

↓は対応する固有ベクトルを並べたもの

 λ_1 に対応する固有ベクトルからなる行列 $\mathbf{U_1}$ で 2 次元データを 1 次元に射影 $u_1=U_1^T\mathbf{x}$

2. 機械学習の基本的な手順



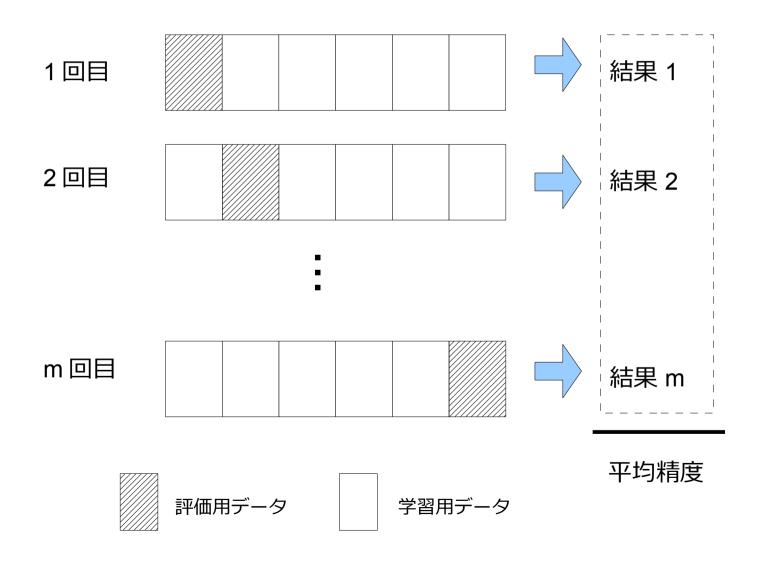
2.3 評価基準の設定

- 学習したモデルの評価
 - 学習データに適合しすぎては意味がない
 - ⇒ 過学習の問題
 - 汎用性の評価が必要
 - ⇒未知のデータに対する識別能力
- 分割法
 - データを学習用と評価用で半々に分ける

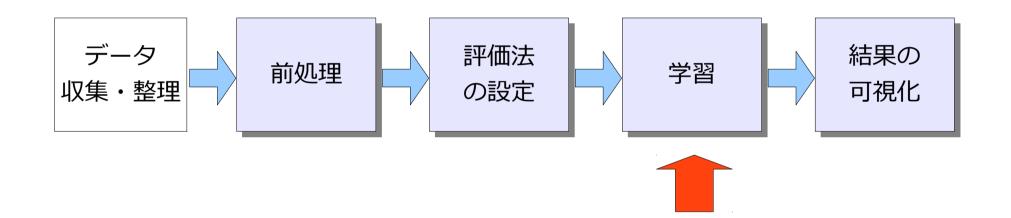
もったいない ...

2.3 評価基準の設定

交差確認法 (cross validation)

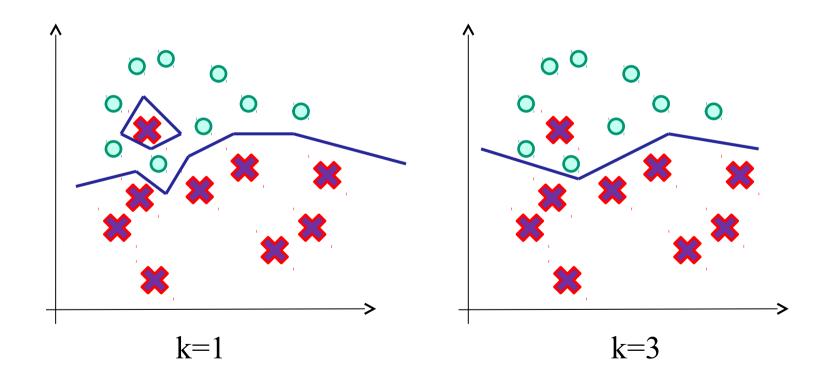


2. 機械学習の基本的な手順

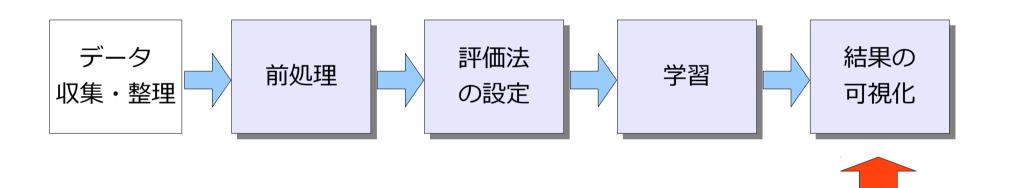


2.4 学習

- k-NN 法
 - 入力データと最も近い学習データのクラスに分類する
 - ノイズに強くするためには k- 近傍の多数決を取る



2. 機械学習の基本的な手順



2.5 結果の可視化

- 学習したモデル
 - 式、木構造、ネットワークの重み、 etc.
- 性能
 - 正解率、精度、再現率、 F 値
 - グラフ
 - パラメータを変えたときの性能の変化
 - 異なるモデルの性能比較

2.5 結果の可視化

• 混同行列

	予測+	予測一
正解十	true positive(TP)	false negative(FN)
正解一	falsepositive(FP)	true negative(TN)

• 正解率
$$Accuracy = \frac{TP + TN}{TP + FN + FP + TN}$$

• 精度
$$Precision = \frac{TP}{TP + FP}$$

• 再現率
$$Recall = \frac{TP}{TP + FN}$$

• **F**値
$$F$$
-measure = $2 \times \frac{Precision \times Recall}{Precision + Recall}$

正解の割合 クラスの出現率に 偏りがある場合は不適

正例の判定が 正しい割合

正しく判定された 正例の割合

精度と再現率の 調和平均

Weka の起動画面

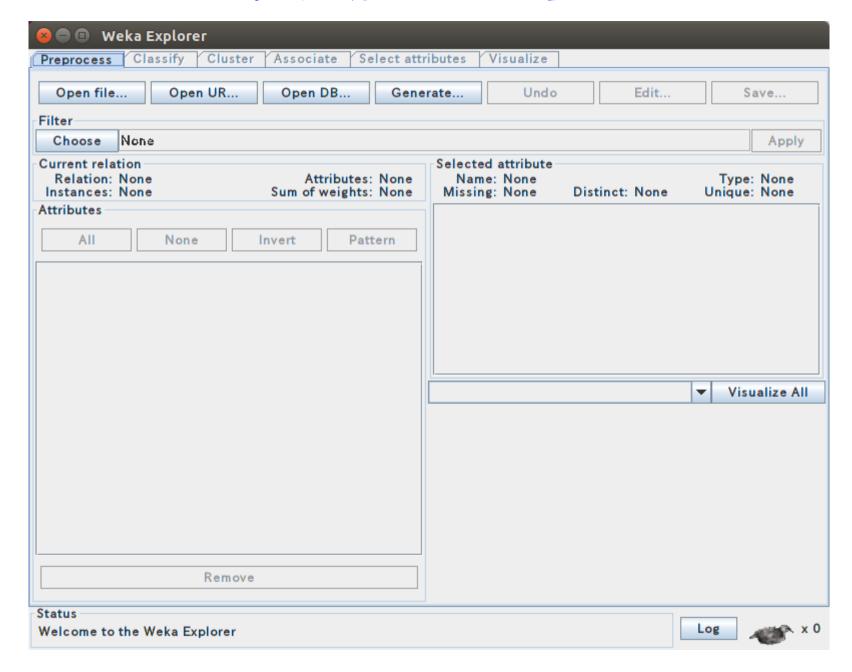


3.7.X: 開発版 機能が豊富

3.6.X: 安定版

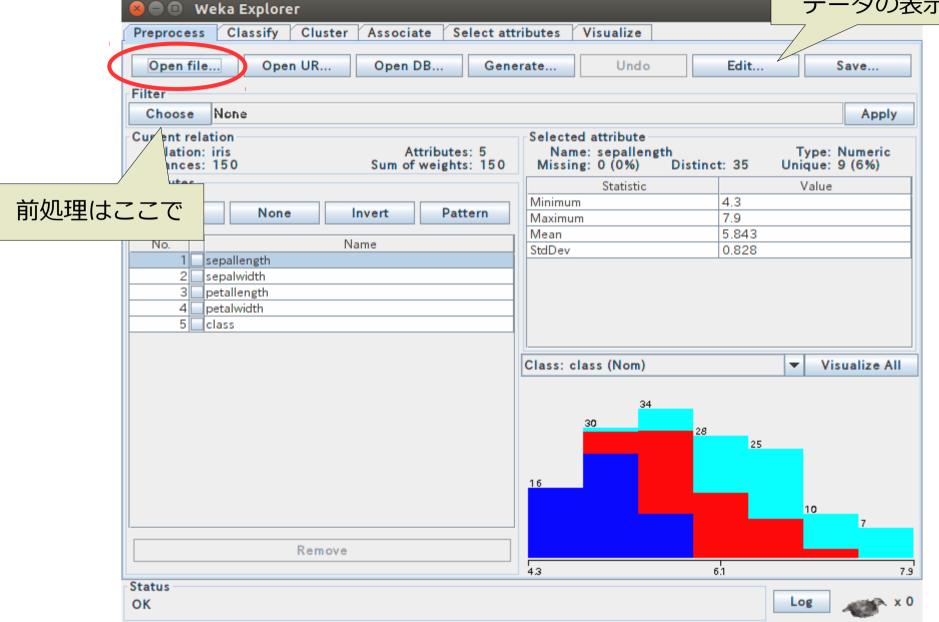
日本語の UI

エクスプローラー



学習データを開く

読み込んだ データの表示



iris データ

8	Viewer						
Relation: iris							
No.	1: sepallength Numeric	2: sepalwidth Numeric	3: petallength Numeric	4: petalwidth Numeric	5: class Nominal		
1	5.1	3.5	1.4	0.2	Iris-setosa 📥		
2	4.9	3.0	1.4	0.2	Iris-setosa =		
3	4.7	3.2	1.3	0.2	Iris-setosa 📉		
4	4.6	3.1	1.5	0.2	Iris-setosa		
5	5.0	3.6	1.4	0.2	Iris-setosa		
6	5.4	3.9	1.7	0.4	Iris-setosa		
7	4.6	3.4	1.4	0.3	lris-setosa		
8	5.0	3.4	1.5	0.2	lris-setosa		
9	4.4	2.9	1.4	0.2	Iris-setosa		
10	4.9	3.1	1.5	0.1	Iris-setosa		
11	5.4	3.7	1.5	0.2	Iris-setosa		
12	4.8	3.4	1.6	0.2	lris-setosa		
13	4.8	3.0	1.4	0.1	Iris-setosa		
14	4.3	3.0	1.1	0.1	Iris-setosa		
15	5.8	4.0	1.2	0.2	Iris-setosa 💂		
.0				0.4			
Undo OK Cancel							

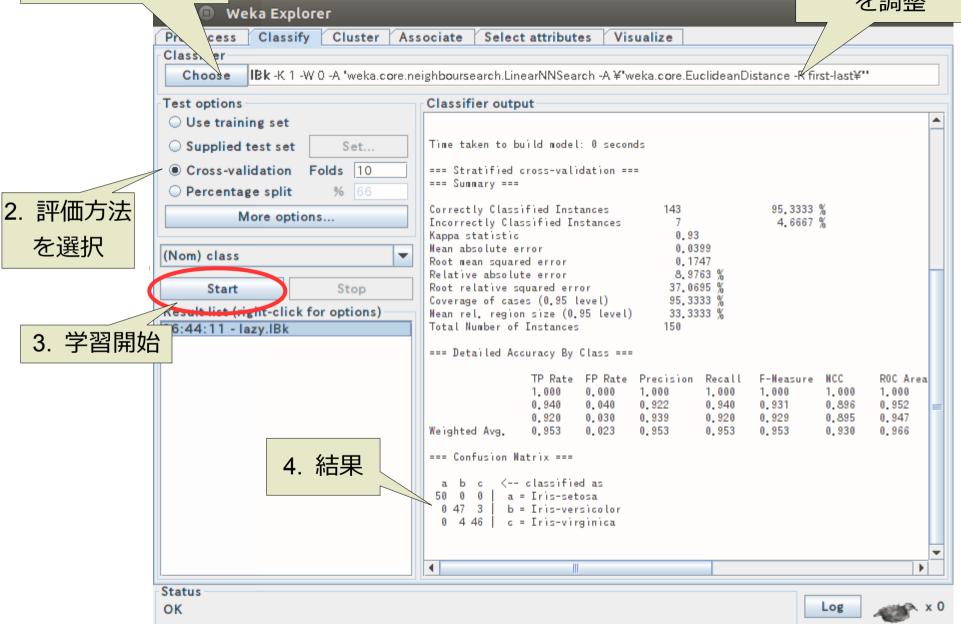
データの可視化



1. 学習アルゴ リズムを選択

学習実験

1'. パラメータ を調整



パラメータの調整

